



p4cみやぎ6月研修会報告

オンラインによる p4c みやぎ 6月研修会

6月30日(水)に、今年度最初の、オンラインによるp4cみやぎ定例研修会を行いました。今回は、研修Ⅰで、宮城教育大学教授の川崎惣一先生から、『WRAITEC』の『A』と『I』についてという講話をいただきました。

その後の研修Ⅱでは、2つのグループに分かれ、研修Ⅰの内容に基づいた対話を行いました。今回は、33名という多くの方々の参加があり、大変充実した研修となりました。

【研修Ⅰ】

[演題] 『WRAITEC』の『A』と『I』について

[講師] 宮城教育大学 教授 川崎惣一先生

○p4cのための「ツールキット」

・「ツールキット」は問いを深めるためのキーワードである。

・絶対に使わなければならないというものではない。

・「ツールキット」は、「思考と対話を掘り下げるために役に立つツール」であり、7つの頭字をとって「WRAITEC」と呼ぶこともある。

○「WRAITEC」の「A」

・「A」: 当たり前だと思っている前提(仮定)があるのでは?

・カイルア高校では、「CIA」(「根拠はないが、～と考えてもいいのでしょうか。')を使って、自分の意見を書かせることが多い。

○「WRAITEC」の「I」

・「I」: 推論 「もし～だったらどう思う?」「もし～だったらいいこと?悪いこと?」とつながられる。

・論理的な説明を求めたり、「もし、あなたの言うことが本当なら～になるけど、それでもいいのか



な?」と確認したりするときなどに使う。

○「WRAITEC」は考えを深めるためのツールである。やってみようと思ったら使ってみてほしい。

「W」「R」「E」だけでも十分である。

【研修Ⅱ】

2つのグループに分かれての対話

〈グループⅠ〉

○問いを立てさせるとき、「もしも～」や「なぜ」を教えると、子供たちはどんどん問いを立てるようになる。「WRAITEC」はとても有効だと感じた。

○「WRAITEC」を常に教室に掲示している。自分の考えを話すときも自然に取り入れている。

○問いを立てるきっかけとなる「WRAITEC」(「～って当たり前」など)をアクティビティで使ってみることも効果的だと思う。

○「WRAITEC」を使わなければならないと思うと苦しくなる。教師が注目させるなど発達段階に応じて使い方を工夫することもあってよい。

○「WRAITEC」は、芸道と同じ。型を身に付けてこそ新しいものが生まれる。

○必ずしもパターンに当てはめる必要がないのではないのか。

〈グループⅡ〉

○「WRAITEC」を使わせようとする、それを意識して子供たちの対話がかたくなるような気がする。年齢に合った、自由に話をする場であってほしい。

○「WRAITEC」を使って問いを作らせることで、掘り下げの問いが生まれるようになるのでは。

○「WRAITEC」を意識していくと、教師も発問や問い返しがうまくなるのではないのか。それが子供同士でつながればよい。

○「深い学び」をはじめから狙わない方がいい。

「WRAITEC」を使うことを丁寧にやり続けていくことで、いつかブレイクする。それが結果的に「深い学び」につながる。

HP (<https://p4c-miyagi.com/>)

Mail (p4c@adm.miyakyo-u.ac.jp)